



「食」を通して子どもたちと触れ合い、  
食育と健康づくりに取り組む  
大切な仕事だと実感しています。

栄養士 連島東小学校

高橋 美幸 (たかはし みゆき)

平成20年度入庁

## なぜ、倉敷市職員に？

私は、「人の健康に関わりたい」「子どもが大好き」という2つの気持ちが強く、学校栄養士になりたいと思っていました。倉敷市を選んだ理由は、倉敷市の小学校は、ほとんどの学校に1人の栄養士が配置されており、子どもの声を聞きながら働くことができるところに魅力を感じたからです。

また、私は大学時代から倉敷市に住んでいて、美観地区や鷲羽山からの雄大な眺めなど、歴史と文化、豊かな自然にあふれる倉敷が好きで、ずっと住み続けたいと思うようになりました。大好きな倉敷市で、子どもたちと触れ合いながら栄養士として成長していきたいと思い、倉敷市職員になることを決めました。

## 現在担当している仕事内容は？



学校栄養士としての仕事は、献立作成、食材の発注、衛生管理、アレルギー対応、給食会計、調理指導、子ども達への食に関する授業や、保護者へ向けた給食試食会の実施など様々な仕事があります。同じ地区の学校栄養士が集まって給食メニューを開発したりもします。

私が勤めている連島東小学校の近くには、ごぼう畑がたくさんあり、全国的にも有名な連島ごぼうの産地です。地場産物を子ども達においしく食べてもらうために研究して生まれた「ごぼうのハヤシライス」は、統一献立にも取り入れられ、子ども達に人気の定番メニューになっています。

食に関する授業をする時は、内容、言葉の選び方などをしっかりと打ち合わせをして、子ども達に伝わりやすいように心がけています。授業の中で、「給食は、こんなに大きな道具を使って作っているんだよ。」と実際に使っている器具を見せると、子ども達が、「わー!!」とキラキラした表情で聞いてくれた時には、自分まで笑顔になりました。

また、給食時には、テレビ放送で食べ物やマナーについて紹介したり、教室を回って話をしたり、食べにくそうにしている児童には直接声をかけたりもしています。子ども達と話をする時間はとても楽しく、あっという間に過ぎていきます。「苦手なものも食べられたよ。」「今日の給食おいしかったよ!」という声を聞くと明日もがんばろう、という気持ちになり、栄養士としてのやりがいを感じています。

これまでで一番印象に残っていることは、6年生の児童から「将来は栄養士になりたい。」と書かれた手紙をもらったことです。仕事に対する責任感が増し、背筋が伸びたことを覚えています。

栄養士の仕事は子どもの安全、健康、成長に関わることのできる大切な仕事だと日々実感しています。

## 倉敷市職員になってよかったことは？

栄養士として活躍できる場が広く用意されていることです。学校、保健所、病院と、様々な職場で働くチャンスがあり、経験を積みながら「食」を通して多くの人の健康づくりに関わることが出来ます。

また、研修制度も充実しており、毎年、新たな専門知識を学んだり、他の学校の栄養士や給食調理員と情報交換をすることができます。その他にも、同じ年に入庁した同期職員と一緒に研修を受ける機会もあります。保育士・保健師・消防職など、違う職種の職員と「倉敷のまちづくり」についてのディスカッションをした時は、それぞれの専門的な立場から意見を出し合うことができ、とても刺激をうけました。このような機会があることも市職員ならではの良さだと思います。



## 志望者に向けてメッセージ

学校栄養士は、各校に1人しかいないため、仕事をする中で不安なこともあります。しかし、前向きに仕事に取り組む同僚や同期職員に支えられて、楽しく働くことができています。志を同じくした仲間が宝です。倉敷市での栄養士という職業は、あなたの栄養士としての可能性を広げてくれる場所だと思います。倉敷市の職員として皆さんと一緒に働くことを楽しみにしています。